



針葉樹会 秋の懇親山行

—紅葉と満員の大山

2012年11月25日(日)

佐籙(31)、竹中(39)、宮本(37)、本間(40)、岡田(42)、金子(46)



3連休の初日は冷たい雨、中日は曇り、懇親山行当日の最終日は快晴。

8時半小田急線伊勢原駅集合。改札を続々と抜けて来る登山者の多さに驚く。他方我々は6人と往年の賑わいはちょっと無い。

しかも、この混雑はこの日の序の口で、バスは長蛇の列、山の参道もしかり、ケーブルは30分待ち、山は満員！ 元滝の男女坂分岐では兎に角人が少ない方と、勇躍男坂を選ぶ。

9時15分登山開始。



男坂はのっけから急な階段。最初の階段を登りきると道の脇に「3町目」の石柱。高野山の距離標の数え方も同様とかで「合」ではない。参道下が1町目で頂上は28町目。高度差ほぼ700m。

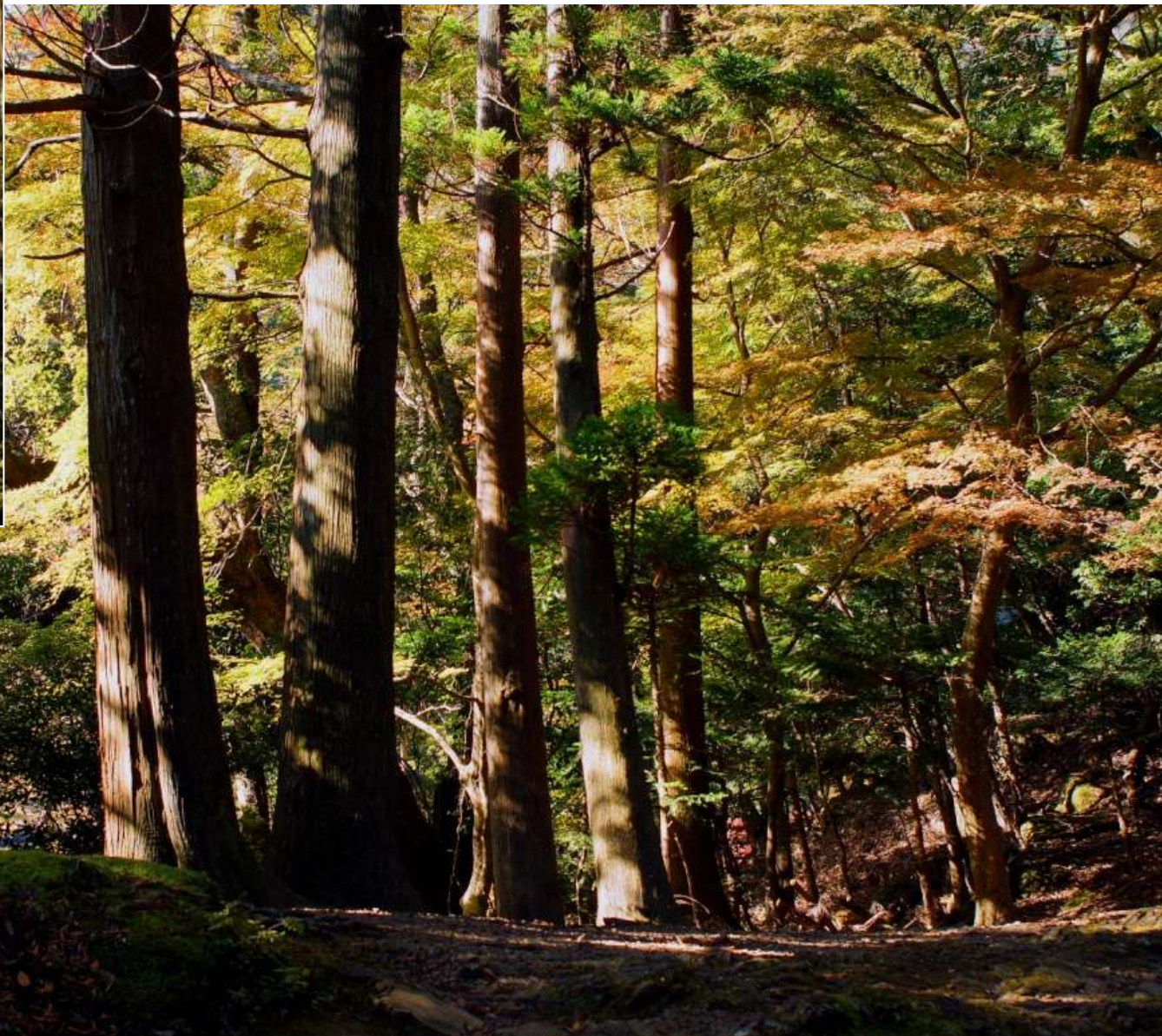
09:15

ほどなく登山者はまばらになる。さすがに男坂、  
人気が無い。とは言え、いつもの静かな懇親  
山行とはいささか趣が違って山はざわざわして  
いる。紅葉はほぼ最終段階。今年は始まりが  
遅く、終わりが早い。



すぐ横をケーブルが

山道の踊り場がまるで京都の禅寺の庭の様だ。





八大坊の紅葉は見事



09:46

ひたすら階段を登って約30分、男女坂合流点到着。  
途端に大賑わい。やはり女坂が圧倒的人気。  
ここから本道は下社を通って頂上に向かうが、あまりの  
人ごみに恐れをなし、本道を外れて水平に東へ向かい、  
大山の南東尾根経由で登ることにする。途端に人は減  
る。ぼくらは人を恐れる獣の様なものだ。



二重の滝と二重社と巨大杉。  
この滝は登りがいがありそうだが罰もあたりそうだ。



大山の杉は巨大とは言え、御岳の杉に比べるとやや細く貧弱で乾いている。



10:30



スカイツリーは霞んで見えず。

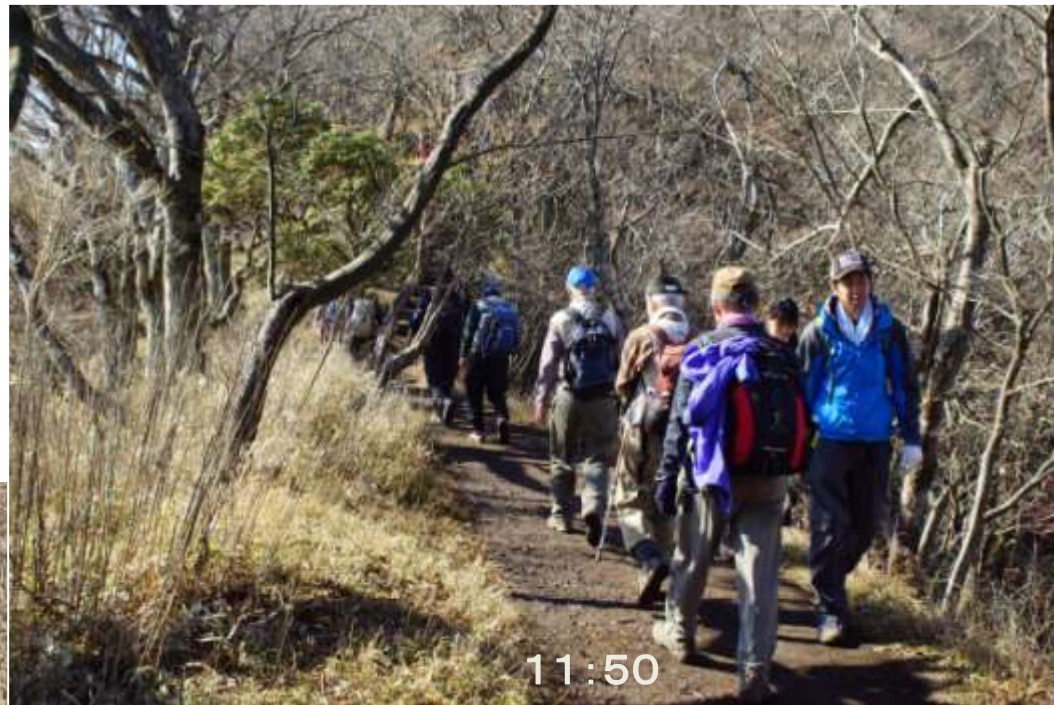


本道を外れて杉林の中をほぼ水平に45分、東南尾根上の見晴らし台に飛び出す。関東平野、三つ峰山、そして大山頂上が見晴らせる絶好の展望台。しかし、ここでもいくつもあるテーブルが満席。首都圏と言う大都会はこんな山にまで押し寄せている。風はひどく冷たく汗がたちまち冷える。



見晴らし台で休憩後大山へ。登山道は混んでいるがちょっと脇にそれると懐かしい丹沢らしい樹林が広がる。

登るにつれ沢山の下山者とすれ違う。誰もが「こんにちは」と挨拶する。今を去るxx年前の高校時代の休日の丹沢もこうだった。当時は律義にそのいちいちに「こんにちは」と応えたものだ。しかし、このたびは言葉にあまりにも何も含まれていないことが気になり、応えるには強い違和感を覚えた。歳をとると注文が多くなる。



11:50

丹沢特有の土の道。



三つ峰山方面への分岐点





山は満員。昨日の雨で水たまりもあり、座れる場所が少ない。トイレも長蛇の列。これだけのウェア、靴、ザック、杖を売るのは大変なビジネスだろう等と考えてしまう。とにかく日本人は山が好きなのようだ。そう、「山の日」はあっていいだろう。





右が今はやりの「山ガール」。モンベルの辰野さんが仕掛け人とか。ストッキング、スカートに特徴があり、カラフルで、往年のワンゲルファッションとは大違い。山ボーイもいる。今の人にはファッションを揃えて初めて山に出かける気になるのだろう。「ファッションの行動学」とでも言う理論がありそうだ。

そしていま一つ驚いたのは若い人が多いこと。山は中高年で一杯と思っていたのがとんでもない、多くの若者、そして幼児を背負った若夫婦がいた。大都会の生活と両立する形で山は復権しているらしい。「都会と山」、その両立は大変望ましいことだがいささか多すぎて山が潰れてしまいそうだ。





とは言え我々は壊れた有刺鉄線を  
乗り越えて囲みの中の笹藪に入り込  
み実にゆったりと昼食にありついた。  
古い山やの図々しさか。



12:20

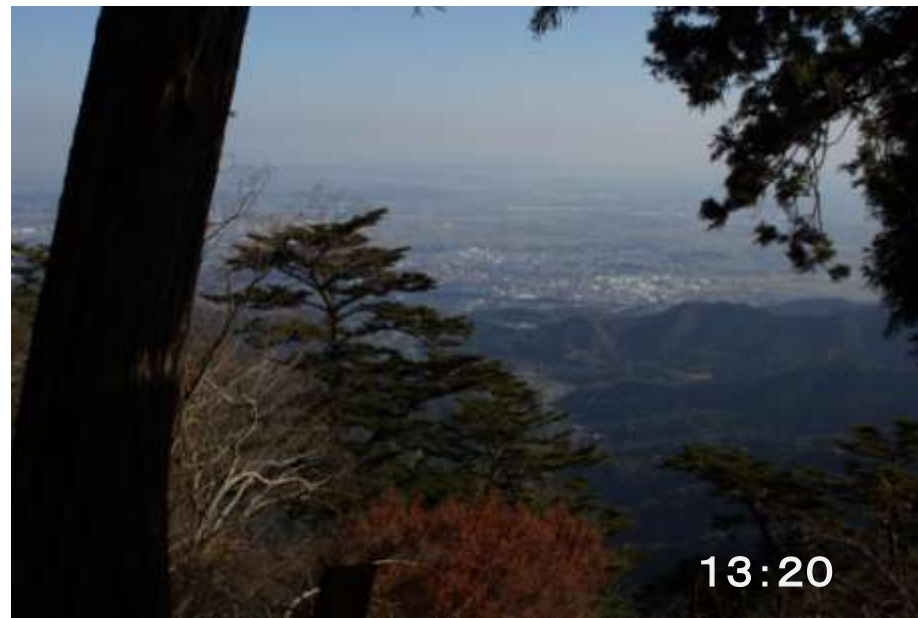


そして最後は囲いの中に入ってきた若いグループの方にシャッターを押してもらって記念撮影

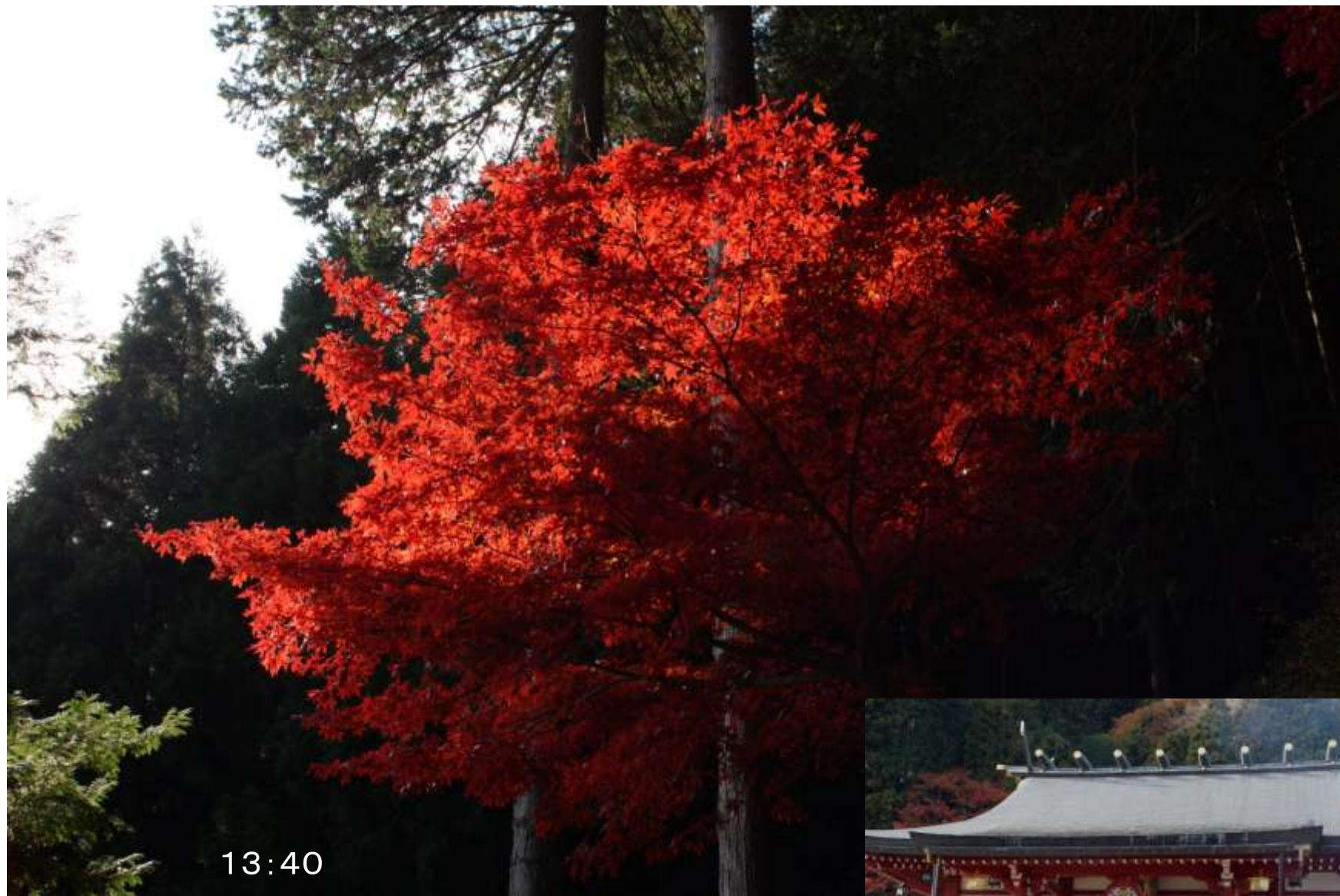


13:10

下り始めてもまだまだ登って来る。ケーブルで来て頂上まではすぐだと思っているのか？子供連れも多い。



13:20



13:40

阿夫利神社下社への最後の下りは急峻な階段。そのわきに真っ赤なモミジが見事だ。皆が写真を撮るので大渋滞。この神社の創建は紀元前97年の崇神天皇の時代とか。実に古い！ その頃から日本人は山好きだったのか。





大山寺は755年に創建。これまた古い！不動明王が有名。寺に登る石段の上空を真っ赤に紅葉した巨大なモミジの並木がすっぽりと覆っている。今年一番の紅葉。



坂を降りて行くと川に向かってカメラの放列。何事かと見れば堰堤の上に鹿3頭。今や丹沢中どこにでもいる。



14:30



14:45

ようやく表参道の商店街。左右に土産物屋や飲食店が並ぶ。かつて大山詣でを済ませた信者が楽しんだに違いない同じ階段に登山者があふれる。そこを5時間半歩いてきた傘寿の健脚がのっしのっすと足取り確かに下って行く。





当初打ち合わせでは本日の最終ゴールは参道中央の「西の屋」だったが満席。そのちょっと先の旅館風料亭となった。3種の豆腐料理を各人1セット、加えて丹波の猪鍋2人前。

ちょうど良い機嫌になってバス停に向かうと長蛇の列。結局ここで30分ほども待ってようやく帰りの途に着いた。

快晴に恵まれ最新丹沢事情と紅葉を十分に堪能、本間幹事ご苦労様でした。





海老名の駅から眺めた2月の大山。